

## 会議録（要旨）

件名	平成28年度 第1回亀岡市行政改革推進委員会		
日時	平成28年7月26日（火）	報告者	企画調整課 行政改革係 主任 佐藤 由紀子
	午後1時30分～午後3時55分	場所	市役所3階 302・303 会議室
出席委員	11名：牛田 眞／小川 泉／木藤 伸一朗／坂本 信雄／佐々木 幸枝 高木 玲子／高橋 昭人／田中 善平／田中 美賀子 藤岡美紀子／森下 明美／		
欠席委員	4名：伊藤秀一／木戸庸介／佐藤裕見子／前平貞二		
事務局出席者	5名：木村企画管理部長／田中企画調整課長／小塩企画調整課副課長 佐藤主任／上西主事		
傍聴者数	0名		
次第	1. 開会 2. 議事 （1）第4次亀岡市総合計画～夢ビジョン～後期基本計画について （2）組織・機構改革について （3）平成27年度行財政改革実施計画の年間取組結果について （4）平成27年度収納率向上対策に係る取組結果について （5）平成28年度行財政改革実施計画について 3. その他 4. 閉会		

### 1 開会（企画調整課長 進行）

只今より平成28年度第1回行政改革推進委員会を開催する。

《事務局紹介》

本日、伊藤委員、木戸委員、佐藤委員、前平委員については欠席の連絡をいただいている。過半数の出席をいただいているので本委員会は成立している旨、ご報告申し上げます。

第4次亀岡市総合計画～後期基本計画についても本日お配りしているので、ご確認いただきたい。

### 会長挨拶

本年度第1回目の委員会となる。参議院選挙の前に、消費税増税の先送りが決定し、その後イギリスのEU離脱問題が起こった。これに伴って財政状況が大きく変化すると思われる。まだ確定はしていないが、国で10兆から20兆レベルの新しい財政対策が図られるかと思う。秋以降の国の動きが亀岡市にどう影響するか、注視したいところである。

本日紹介があるが、行政改革大綱や実施計画と並行して、夢ビジョンの後期基本計画が進行し始めている。今後の亀岡市の行財政改革の進捗にも重大な意味を持つので、本日はご審議いただきたい。

## 事務局（企画調整課長）

委員の交代があったのでご紹介させていただく。

亀岡社会福祉協議会の役員交代に伴い、西崎委員に代わり新たに小川委員にご参画いただくことになった。

## 委員

よろしく願います。

## 2 議 事

### （1）第4次亀岡市総合計画～夢ビジョン～後期基本計画について

#### 事務局　　《事務局から説明》

#### 《後期基本計画DVD鑑賞》

#### 会長

当年度からの後期基本計画の重点事項等についてご意見があれば願います。

#### A 委員

シンボルプロジェクトは、スタジアムの用地が変更になった場合変更されるのか。

#### 事務局（企画管理部長）

冊子P 142. 143 にシンボルプロジェクトの記載がある。スタジアムの用地の関係については、みなさんご存知のとおり専門家会議から調査に時間がかかるということでアユモドキの保全と早期完成の観点から駅北に移転の提案をいただいている。これまで地元の熱意と協力で守られてきたアユモドキであり、問題が長期化することでアユモドキの保全に対する熱意が冷めてしまい逆にアユモドキの絶滅を招くことを環境専門家会議の座長さんも危惧されている。早期に建設ができる方法としての提言である。その提言を重く受け止め市長がすでに組合に話をさせていただいている状況である。同意がいただけるのであれば移転をしていきたい。今の計画場所で絶対建設が出来ないという訳ではないが、専門家会議の判断であり何ともいえない。市長の思いとしては京都府の財源的なことも含めいつまでも猶予期間がある訳ではないというところで、駅北を移転地とできないかとして進めている。仮に駅北にスタジアムが移ったとしても現在の建設予定地の隣接地であり、後期基本計画のシンボルプロジェクト、京都・亀岡保津川公園とスタジアムを中心として3つの重要課題を推進していこうという姿勢は変わらない。京都・亀岡保津川公園の整備も含めて、活用をしていきたい。現在のところシンボルプロジェクトを変更するつもりはない。まだ、結論はでていないが、結論次第で市民のみなさんと議論をさせていただきながらということになるとは考える。

#### 副会長

環境専門家会議はどれほどの権限があって影響力がある組織なのか、教えていただきたい。

#### 事務局（企画管理部長）

権限的には任意の組織である。京都府が設置し、亀岡市も参画している。スタジアムの建設にあたって、環境保全とアユモドキやその他の動植物にどういった影響がでるのかを検討する会議である。

## **B 委員**

確認であるが、後期基本計画でも人口は10万人の想定になっているのか。

### **事務局（企画調整課長）**

人口については、基本構想で定めており、平成32年度で10万人を想定している。これについては、変更をしていない。

## **B 委員**

人口は行革の委員会の中でも一番重要なキーワード（数値）である。この委員会でも人口減少については議論してきた。目標が10万人だとすれば、現在の9万人割れ目前の状態からどう増やしていくのか、明確に示されていないとまったく説得力がない。人口増のシナリオは考えているのか。

### **事務局（企画調整課長）**

人口は平成23年の基本構想策定時に10万人と定めた。その時点で人口減少は始まっていたが、にぎわいを創出し、まちを活性化していく目標として10万人とした。基本計画では人口増加策として、大井町や駅北の区画整理を進めていくことによって人口増を図っていくとしているが、全国的な出生率の低下や人口減もあり、なかなか数値が達成していかない現実がある。

## **B 委員**

私が提出した資料（人口と個人住民税の関係）にあるように、人口の減少は住民税の減少につながる。住民税は固定資産税と並ぶ自主財源であり、住民税が減少するということは歳入の確保が難しいということである。10万人が達成できれば税収は増える見込みになるが、現在の状況では市民に歳出削減を言わざるを得ない。市民に問いかけるべきは、歳入は増えないため歳出を抑制していかないといけないということではないか。

### **事務局（企画管理部長）**

人口ボーナス期から人口減少期になり、経済が縮小している。それに伴い、働き手も減り税収も減少している。これについては、後期基本計画策定時に議論し議会からもご意見をいただき討論もいただいた。

亀岡市には10万人のキャパシティはある。国全体として出生率が下がっていく中、問題はこういった施策を打っていくかであるが、国の方でも取組はあるし、大井町南部や駅北等で新たな住民を呼び込む取組も行っていく。また後期基本計画に掲げているように、子育て支援を充実させて定住促進の取組を行い10万人目指して頑張ろうということである。目標10万人が過大であるという考えもあるが、地域に誇りを持たないといけない。鹿島市が鹿島アントラーズのホームグラウンドになって活性化したように、スタジアムを中心に住んでいる人が自慢できるようなまちにできるように頑張っていこうということでシンボルプロジェクトに掲げ、各章で人口減少や少子化の対策となる施策を定めているものである。人口減に歯止めをかけるために、現在転出超過である社会減の状態であるのでこれを減らしていくように何をすべきか分析を行いながら取組をおこなっていく。

## **B 委員**

10万人を目標値とするとその場合の予算見通しはどうなるのか。人口が増えると歳入歳出規模も大きくなるはずである。

## 事務局（企画管理部長）

基本的に歳入、歳出を細かく積み上げたものはない。亀岡市では中期財政見通しをたてているが、5年後どういった地域に人口が増えて、どう税収が増えるといったシミュレーションは行っていない。各課からあがったデータを基に商業・工業・所得等一定のシミュレーションをして作成しているが、10万人を念頭においたものではない。

## 会長

そもそも、総合計画の内容についてはこの場でしていただく議論ではない。総計の審議会や進行管理の中で議論していただければと考える。

## C 委員

私もこれだけはどうしても言いたいのだか、夢ビジョン策定時にも多くの市民が10万人はおかしいと言っていた。経済界に押し切られる形で決まったと考えている。後期基本計画では修正があると思っていたがなかった。後期基本計画では、10万人は難しいけれどもこうしていく、という熱意をもっと見せるべきだった。どうも行政自体が10万人を本気で考えていないと感じる。実際の運営はもっと堅実である。行革で本当に改革しないといけないのはこういった大人の会話としてみんなが進めていることではないか。

## 副会長

私は審議会にいた者として申し上げるが、押し切られた訳ではない。経済界は当時16万人と言っていた。目指すところとしての10万人である。議事録を見ていただければわかる。私たちはいい加減な気持ちで委員をしているものでもなく、それぞれの専門性を活かしながら事前学習も行い、様々な提案も行ってきている。一番大切なのは、計画を市民に関心を持っていただくこと、このまちをよくしていくことである。

## D 委員

スタジアムの件については、市民がかやの外だと感じる。内容が伝わってこない。完成したスタジアムを市民は利用できるのか、管理は誰が行うのか、亀岡の持ち出しが維持・運営で増えるのではないかと、本当のことがわからないので憶測が飛び交う。スタジアム関係のことはもっと市民に説明していただきたい。

## 事務局（企画管理部長）

審議会では真剣に議論いただき、いろいろなご意見もいただいている。「夢ビジョン」は夢を持って将来の子どもたちにこの亀岡を引き継いでいくという思いで付けられた名称。目標を10万人ではなく8万人とすればよかったのか、ということであるが、10万人は1つの大きな目標である。そのようなまちになるよう、ポテンシャルがある亀岡で何が不足しているのか、そのための施策を打っていく。財源的にはすべての施策を行っていくというのは厳しいかもしれないが、できるだけ今よりもよいものを次の世代に引き継ぐための計画である。

スタジアムの情報について市民への情報提供が少ないという話は日頃から伺っているところである。地域こん談会ではお話しさせていただいており、出前タウンミーティングというご要望に応じて出向いてお話しをさせていただき制度もあるのでぜひ利用していただきたい。なるべく情報提供をしていきたいとは考えている。ただ、このスタジアムは亀岡市が建設するものではないためなかなか具体的なお話しがさせてもらえない状況となっている。亀岡市は用地を準備し、京都府が建築を行うという役割分担もある。まだまだみなさんのご意見を聞かせていただく機会はあると考えている。今はまだ途中経過であり、誘致場所を選定して

いる段階である。

## 会長

総合計画については、10万人を目指すよりも9万人を割らないための個別の施策を具体化していくことが重要だと個人的には考える。

## (2) 組織・機構改革について

資料 1

### 事務局 <<資料に沿って事務局から説明>>

#### 会長

行革大綱でも組織・機構や職員の配置については、取組項目となっている。わからないところや効果など質問があればお願いします。

#### A 委員

他市を比較した時に、亀岡市は担当部長や担当課長があり複雑だと感じる。もう少し整理して誰が担当かわかりやすくしてもよいのではないかと。来年度の改定時にでも検討していただきたい。

#### 事務局（企画調整課長）

担当部長、担当課長については補職名に担当する事務を示している。なるべくわかりやすい表現を心掛けている。

国の政策も多岐に渡るため、専門的に取り組む必要があるものについて対応している。この制度について見直しをする予定は今現在ないのでご理解いただきたい。

#### A 委員

担当部長、担当課長の配属されていない課と配属されている課があるのはなぜか。

#### 事務局（企画調整課長）

それぞれの部署の業務量と業務内容によって配属されている。

#### C 委員

南丹広域振興局とはつながりが深いと思うが、亀岡市から何人出向しているのか。

#### 事務局（企画調整課長）

南丹広域振興局は府の機関であり、京都府の施策と亀岡市の施策で連携して進めていくものはあるが、亀岡市から振興局への出向はない。税の関係で、地方税機構において徴税事務を共同で行っており府の職員と市の職員が同じ組織の中で事務を行っているものはある。

#### C 委員

南丹広域振興局への亀岡市の窓口はどの部署か。

#### 事務局（企画調整課長）

施策ごとに担当課が対応している。例えば府の管理河川の関係であれば府の南丹土木事務所が所管となるが、市では桂川・道路整備課が窓口になる。

#### E 委員

後期基本計画を進める上で、亀岡市で何が必要になってくるのかということと福祉である。例えば健康福祉部であるが、子育てや介護ですでに大きな流れが始まっている。企画管理部で

現在全体の調整をされているが、健康福祉部やその他の事業部に企画部門が必要と考える。そこで進行管理をさせることで、より管理機能が働くと考える。次年度以降の機構の検討課題としていただきたい。

## **F 委員**

にぎわいの創出には企業誘致が大きいと考える。企業誘致はどこが所管しているのか、新しい市長になってから2つ、3つの企業誘致に成功したと聞いているが、新聞で知るくらいでどういった企業が誘致されどのぐらいの雇用が見込まれているのか、市民にはわからない。そういったことを表に出さないのは何故か。特定企業の情報を出すことになるからか。もっと市民へ情報発信を行うべきだが、担当課はどこかになるのか。

### **事務局（企画調整課長）**

企業の関係は、産業観光部ものづくり産業課が担当している。情報発信は不足している面はあるのかもしれない。大井町南部で2社ほど大きな企業の進出が決まって新聞への広報発表は行ったが、全ての企業を市民にお知らせするという形では広報できていない。市の広報媒体も活用して情報発信していきたいと考える。

## **G 委員**

7月13日に市長と本音で語る会が女性会であった。そこで、企業誘致で900人の雇用が生まれる話や、九条ネギの海外発信を行っているKOTO京都や、鶴屋吉信、日清医療食品の誘致話を聞いた。情報発信は大切だが、伝達はなかなか難しい。一番効果的なのは女性の「口コミ」である。正確な情報が伝わらないと憶測が走る。正確な情報が伝わるようにするのが、私たちの委員の役目だと思う。しかしなかなか難しい。本音で語っていないし、市民に密着していない。行政のためだけの進捗状況報告となっていると感じる。

### **事務局（企画管理部長）**

発表できるタイミングが非常に難しい。行政側からするとすぐに発表したいが、企業側から止められている場合もある。発表できるタイミングが記者会見と重なり行政の発表より新聞発表の方が早くなる場合が常態となっている。雇用計画についても細かいところまで言っただけでよいのかどうかということもある。今後は、市民の方の関心ごとでもあるため、ご意見をいただいたことを反映させて努力し、なるべく早くわかりやすい情報提供に努めていきたいと考える。市民目線で欲しい情報について具体的にご意見をいただければと思う。

## **H 委員**

この機構改革は、例年に比べて大規模な改革なのか、それとも小規模なものか。

### **事務局（企画調整課長）**

平成28年度は桂川市長が就任されて初めての組織・機構改革で市長の政策と後期基本計画の推進を反映させた大規模な改革となった。

## **H 委員**

例年はここまで変わらないということか。

### **事務局（企画調整課長）**

そうである。部の新設は最近ではなかった。

## **会長**

組織・機構改革にともなって人事異動もありスタッフの異動もかなりあった。

### (3) 平成27年度行財政改革実施計画の年間取組結果について

資料2-1、2-2、2-3

事務局      《資料に沿って事務局から説明》

### (4) 平成27年度収納率向上対策に係る取組結果について

資料3-1、3-2

事務局      《資料に沿って事務局から説明》

#### 会長

資料3-2の上下水道料金の収納率は、3月末の数値となっている。

#### 事務局

上下水道については、企業会計であるため会計を3月末でしめることになる。5ヵ年比較の収納率のグラフについては、5月末の補正值で表示をしている。

#### C委員

No.26 バス交通の見直しについては、第3四半期まで「○」になっていたと思う。篠のバス運行開始が遅れたことによる目標未達成であれば第3四半期の段階で達成できないことがわかっていたのではないか。最終第4四半期で達成できなかったというものではないと考える。ここまで努力してもらっているのだからきっちりしてもらいたい。

#### B委員

収納率の問題はどこの自治体でもある。同規模の自治体（関西で20団体程度）との比較を勉強のためにも行ってもらいたい。それによって対策もとれる。

#### 会長

毎回言っていることだが、13料金の主力は市税と国保である。他の料金と規模が異なる。過年度については地方税機構で取り組んで取れるところは取っていつている数値となっている。

#### B委員

一般的に給与所得者は住民税を特別徴収されている。退職者や個人事業主が増えると国保の負担には影響がある。市民の職業形態の調査があってもよい。

#### 事務局

市民税について特別徴収分はほぼ100%に近い形で収納できている。国保については、自営の方や退職者の方といった普通徴収の対象者が多く、年金からの特別徴収の方もいるが、収納率の伸び悩みの要因となっている。

#### B委員

収納率は今後まだ下がっていく可能性もある。

#### 会長

平成27年度はやや改善傾向にある。

#### 副会長

視点は違うが、収納率のカラーグラフはわかりやすい。今まで数字の資料はどこを見てよ

いかなかなか見づらかった。

## **D 委員**

グラフで、一目でわかるようになっているが、収納率グラフの目盛りが現年と過年で違うのはなぜか。

## **事務局**

現年度はすべての料金が90%以上となっているが、過年度については、料金によって収納率に差があるため、0%~100%の表記とした。現年を同様の表記にすると各料金の差がわかりにくいため、表記を変えて表示している。

## **会長**

上下水道を外して出納整理期間を終了した料金を並べた方がよいかもしれない。期間が異なるものの横並びは難しい。5カ年のグラフは上下水道を調整して見やすくしてある。

## **H 委員**

幼稚園の収納率が100%で保育所の収納率が低い要因は何か。数の問題か、支払方法は異なるのか。

## **事務局**

支払方法は同じであるが、市立幼稚園は1園しかなく対象者の母数が異なる。

## **会長**

金額が、保育園と幼稚園で桁が違う。以前にも話したが保育所を卒園して他府県に行かれて追跡できなくなるといった独特な事例もある。

## **E 委員**

保育所は父母の所得に応じた料金になっている。保育所は0歳児からも預かる。2人分の所得から計算することになるが、保育料納付が一番優先ということではなくどうしても家庭の事情もあり収納率が下がる。いろいろな対策はしている。保育料の調定額が5億円あがっていても、収納率が98%。滞納率が2%としても1,000万円が入ってこないことになるのは税収としては大きな数字である。

とはいえ、93.16%という全体収納率は努力した結果だと感じる。制度によって収納は異なる。例えば介護保険については、年金からの天引（特別徴収）がほとんどになる。所得の低い人が普通徴収となっていて、生活もあり、これがなかなか徴収できない。全体収納率は努力をされていると思うが、他市はどうなのか。1%で収入額が変わる現状である。市税収入については、新たな税を設けない限り100億円を切っている状況は変わらないので、収納率を上げるためにも、次年度からは他市との比較をしてよその市の良い点等を参考に各担当課で取組を検討してもらいたい。

## **A 委員**

国保の実績が92.57%である。毎年低いのはなぜか。また国保の窓口の対応が悪いといった話を家族から聞いた。窓口の担当者が毎日変わり同じ話を何度もしなければならなかったという話を聞かされている。

## **事務局**

加入者に支払能力が低い人が多い。手元にデータはないが、京都府下の他自治体でも90%前半である。ただ、亀岡市がその中で良い方かと言われるとそうではない。収納率は少しずつ改善しており、差押えなどにも取り組みだしている。



## 会長

資料3-2でコンビニ収納0となっているものは、コンビニ収納を実施していないということでしょうか。広がる可能性はあるのか。

## 事務局

そうである。コンビニ収納については以前ヒアリングも行ったが、各料金で費用対効果を考えて実施しているため実施していない料金もある。システムの改修費がかかることも要因となっている。効果が見込める料金について実施しているのが亀岡市の現状である。

## (4) 平成28年度行財政改革実施計画について

## 事務局

### 《資料に沿って事務局から説明》

## 会長

ふるさと納税は46番目の取組の候補ということになる。基本的なラインは昨年度と同じである。これで公開をしていく。

## B委員

年度途中で新規項目を考えていくことができるのであれば、市民協働の項目をぜひ検討してもらいたい。行政サービスを市民と協働で推進していく具体策について行革の項目としてもらいたい。税収が増えない中で行政サービスの質を下げずに乗り切るために市民側でできるものをシフトしていくことが必要である。市民協働をどう進めていくかが、これからの亀岡市には重要だと考える。我々や協働の委員会ですべてどうしていくか、議論しながら事務局からも所管課に呼び掛けを行ってもらいたい。

## C委員

No.45 自治基本条例の研究の取組があるのではないかと。

## B委員

市民協働の文言はでていますが、条例の検討だけではない取組を言っている。

## 会長

全体的に市民の参画や学識経験者の参画を考えてもよいと思う。財政の話などそれなりに専門性のある人で話をしてもらってそれを市民に投げかけるというやり方もあると考える。

## B委員

市と共同で2年前に研究発表したが、それが生かされていない。

## 会長

亀岡市における審議会のあり方は協議してもよいとは考える。9万人程度の規模で多くの審議会を抱えている。

## B委員

どうしても形式的になりがちである。各委員会が勝手に物を言っている状態になっている。各委員会からあがった意見を整理し、統括する部門があってもよいのではないかと。その項目があってもよい。

## 会長

事務局で検討してもらいたい。

### 3 その他

#### 会長

他にないようであれば、以上をもって本日の協議事項は終了する。

今回の会議が16期最後の委員会となる予定である。

今後の予定について事務局から願います。

#### 事務局

今後団体推薦依頼や市民公募を行い、17期の委員会は11月末ごろの開催を予定している。

#### 事務局(企画調整課長)

木藤会長におかれましては、円滑な議事進行をしていただき有難うございました。

委員のみなさまには、長時間に渡りおつかれさまでした。2年間お世話になった委員のみなさまに企画管理部長の木村から一言ご挨拶を申し上げます。

### 4 閉会

#### 事務局(企画管理部長)

委員の皆さまには大変お忙しい中をご出席いただきありがとうございます。

本日は、亀岡市行財政改革大綱2015-2019及び各年度実施計画について大変熱心にご議論いただき、また貴重かつ多様な意見をいただき、誠にありがとうございました。

今回が任期中最後の委員会となるが、これからも行革推進委員会は続けさせていただきたいと考えているため、これからもみなさんのお力をお借りし、専門的な立場から高いご見識とご経験による貴重なご意見・ご提言をいただければありがたいと考えている。亀岡市は大変厳しい財政状況にある。税収が伸びていくことは基本的に難しい。税収が100億を切り、28年度は100億円を回復するように努力しているところであるが、なかなか市税税収自体は上がらない状況となっている。このような状態だからこそ行革が必要となる。ご意見・ご審議いただいた内容を職員が力を合わせて実行していくことが行革の本来の目的だと考える。力を合わせて頑張っていくのでこれからもよろしく願います。最後になったが、みなさんのご健康とご多幸をお祈りしてこれまでお世話になったお礼のあいさつとさせていただきます。

以上